

平成 20 年がスタート！「ぎょさい」により一層のご支援を！

全国の皆様、新年あけましておめでとうございます。
輝かしい新年を迎え、皆様のご健康とご多幸を心からご祈念申し上げます。

さて、本年度 12 月末現在の加入実績は共済金額で 3,035 億円と、ぎょさい史上最高となっています。これも関係者の皆様の厚いご支援の賜物です。まずは本年度の運動目標 4,205 億円の達成に向けた取り組みを更に強化していき、4 月からは「浜を守る！ぎょさい総加入運動」の締め括りの年として、最終年度に取り組んでいく所存です。

また 4 月からは、行政、漁協系統と一体となって進めている「漁業経営安定対策事業」（積立ぶらす）がいよいよスタートします。平成 20 年度は、この新事業と「ぎょさい」が連携してパワーアップした、まさに新しい漁業経営の安定対策の幕開けの年でもあるわけです。

さらに次期制度改正に向けましては、更に魅力ある「ぎょさい」制度を目指した作業が本格化してまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

ところで、昨年もいくつかの災害が発生し、このうち赤潮被害、台風被害については本紙面にてお知らせしてきたところですが、近年、各地で地球温暖化の影響等が疑われる海況異変が報じられており、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の評価報告書によると、今世紀末の地球の平均気温の上昇幅は、最大 6.4℃との予測を示し、海面の上昇は最大 59cm、干ばつ、豪雨、洪水の危険性の増大の知見を示しています。一方で生態系への影響について、海洋の酸性化の進行による種への悪影響や、1.5～2.5℃の平均気温上昇は、約 20～30%の種の動植物が絶滅の危機に瀕し、生態系の構造や機能に大きな変化が予測されるとしています。

こうした地球温暖化について警鐘が鳴るなか、今漁期のノリ養殖は、高水温の続く状況に悩まされ秋芽生産の開始が遅れるとともに、瀬戸内海地区では大規模な色落ち等が、また夏から秋にかけての高水温の影響による養殖カキの大量へい死等の大きな漁業被害が発生しています。

新たな年を迎えるにあたり、こうした被害が少ない年であることを強く願うとともに、十二支の始まりである子年が、新たな始まりをもたらす飛躍の 1 年であることを願い平成 20 年をスタートしたいと思います。

（平成 20 年 1 月 15 日 運動情報版より）